

令和6年度あしたのまち・くらじづくり活動賞 主催者賞受賞

前原での学生の挑戦による街の活性化

福岡県糸島市 特定非営利活動法人 ENGAWA Project

2018年、九州大学の学生が「前原を生街に」を理念に立ち上げた学生団体。現在は地域住民と共に4つの常設プロジェクト、



前原の商店街と協力して行った gallery モザイクアート展の完成品

その他イベントを多数運営している。3年の歳月を経てNPO法人となり、現在では累計100名以上の学生が関わる一大プロジェクトへと成長した。

九州大学の移転により、前原地域は大学から程近い場所となる。この前原という街は、様々な移住者が集まる側面もありつつ、古い商店も残っているという側面もある、「面白いまち」であった。当初は地域と大学の関わりはほとんどなかったが、「この街のまちづくりに学生が関わったら面白いことが起きるのでは」という設立者の想いから活動を開始。九大生が、①前原地域によく来る（遊び・サークル・バイト）、②日常を過ごすようになる（行きつけの場所がある・知り合いがいる）、③挑戦する（街の資源を活かして「やってみよう」

に挑戦すること）の3つを目指し活動を開始した。

現在、(1)空き倉庫を活用したギャラリート



春のいとしまラゾ祭りにおける公開収録時の様子





三ツ矢青空タスキでの古民家 AD9 での漆喰塗り体験の様子

業、(2)コミュニティラジオ事業、(3)古民家を改修した民泊事業、(4)学生居酒屋の営業、(5)学生が住まい、友だちの家となるシェアハウス事業などを行っている。この他にも商店街地域でのイベントのボランティアや清掃活動、田植えのお手伝いなど、「学生にお願いしたい」という地域の皆様の声をきっかけとして、学生と前原をつなげる活動を展開している。

また、当法人は、地域ニーズに応える事業を通じて収益を上げ、それをさらなる学生の挑戦資金として活用する「稼ぐNPO」の実現を目指している。さらに、学生の挑戦を促すことで、地域資源を活かした魅力再興、そ

して将来的にはIターンやJターンによる定住者の増加にもつなげていくことを目指している。

(1) 空き倉庫を活用したギャラリー事業

もともとは工具店の倉庫だった空間をリノベーションしたギャラリースペース。改装は学生と地域住民のDIYで行った。

この空間を活用し、外部利用者向けにスペースの貸出運用と、イベントの企画・運営を行っている。イベント事業では、地域との交流を深めることを目的としたイベントを考案してきた。2023年7月には、商店街の店舗と協力して「モザイクアート展」を実施。店舗の来店者に塗り絵に協力してもらい、それらを集めて一つの大きな絵を作成しギャラリーに展示した。この他にも、糸島で活動するアーティストや、九州大学のサークル活動を誘致してイベントを実施し、学生と地域の関わりを拡げた他、地域の文化活動の振興に寄与してきた。

(2) 地域住民と共に立ち上げたコミュニティラジオ事業

「防災無線を作りたい」という糸島に住む70代男性の想いから、学生と地域



漆喰塗り・竹箸づくりイベントにおいて、竹箸を作成する子どもの様子

の大人とが協力して作り上げたコミュニティラジオ企画。構想段階から参画し、企画運営の補助に携わり、3年間の活動で登録者数は700人以上となった。現在では、隔週木曜日に放送を担当している他、年4回の全体企画でも活躍中。大学進学をきっかけにこの地域に来た学生たちが、「よそもの」の視点から前原の街や人の面白さを再発見し、世界へと発信している。

(3) 古民家をリノベーションした民泊事業

篠原にある空き家を学生がDIYによってゲストハウスとして再興した事業。学生が住みながら、世界中のゲストを受け入れる民泊施設となっている。

この古民家は、150年間様々な想いと



第12回糸島センペロにて、参加者が学生居酒屋で楽しんでいる様子

もに大切に守られてきた。空き家となっていたこの物件を当団体が借り受け、総勢50名以上の地域住民の協力の元、約2年半DIYを敢行。2023年2月には学生が居住するシェアハウス、2024年6月にはゲストハウスの開業に成功した。2024年6月現在、3名の学生の居住と、海外旅行者を含む7名の宿泊が決定している。

また、昨年夏頃から改修作業と並行して、大手飲料会社とコラボした体験イベントも実施。漆喰塗りや流しそうめん、竹箸づくりなどの体験を通して、地域内外を問わない幅広い世代との交流や、地域資源を楽しむ機会を提供してきた。今後も、この古民家に関わる

たくさんの方の学生・宿泊者・地域住民などの想いを紡いでいくゲストハウスを目指している。

(4) 学生と地域をつなぐ学生居酒屋の運営

店舗の休業日を間借りすることで、営業が可能にした学生居酒屋。駅前の商店街にあるカフェ店舗をお借りしている。営業開始のきっかけは、前原により多くの学生が来て地域の大人との交流を楽しんでほしいという思いからである。同世代が営む店なら学生も入りやすいのではないかと考え、2024年2月からこのプロジェクトを始動。地域住民や、メンバーの友人の学生などを中心に、2月以降総勢136名（営業回数は14回）の来店があった。また、通常の営業に加えて、地域のイベントにも出店するなど、少しずつ活動の幅を広げている。

(5) 地域の居酒屋をめぐるスタンプラリーイベントの開催

前原の飲食店をお得に飲み歩きできる「マエバルウォーク」という企画を2024年5月、2日間にわたって開催。「若い人にもっと前原に来て欲しい」という飲食店側の声に答え、若者と前原の飲食店の新しい交流を生み出すことを目



マエバルウォーク リターンズにおいて参加者同士で交流している様子

的に、このイベントを実施。SNSを活用した集客により、最終的には九大生等の若年層や周辺住民を含め合計116人が参加した。学生参加者からは「また前原に遊びに来たい」、参加店舗からは「常連客と若者の交流がみられて新鮮だった」という声をいただいた。実はこのイベントは、もともと有志の地域住民が運営していたが、運営コストの高さから開催が中止されていた。今回、団体が引き継ぎ、学生という立場で運営したことで、参加店舗側の積極的な譲歩を引き出し、コストを下げることに成功した。また、若い世代への広報を強化し、地域と若者の交流を生み出す良い事例となった。

（特定非営利活動法人）
ENGAWA Project 川添紗奈